主要3社が過去最高目指す

ワタナベグループ

フード&エンジニアリングの総合企業として北海道経済の一翼に立つ『飲・食』のトータルプランナー・ワタナベグループ。同グループは旗艦企業である「渡辺食品機械」が冷凍機・空調機器、資材を販売する総合冷熱商社。「ワタナベ冷機」は低温を主体とする冷凍・冷蔵・店舗設備設計・施工業者。「厨房ファクトリー」は業務用厨房機器新品・中古販売ならびに同設計施工。「ワタショウ」は業務用酒類食品卸販売。「ワタショウフーズ」は業務用食肉加工製造・氷製造販売業。「マルショウ」は夜間の業務用酒類・食品・氷販売・通販事業といった機械グループ3社、そして総合不動産業の「ナベビル」の7社体制にて形成される。超という戦前からの歴史を刻みつつ、この間、事業継続においてはオイルショックや札幌五輪、バブル崩壊、そして直近では新型コロナウイルスという山谷を経験しつつも、都度ぶれることなく拡大を期し今日のステージを創ってきた。特にこの3年間は同グループ売上げの牽引力となってきたワタショウが一時、6割まで下げるも新たなネット通販という道筋を確立し復活を果たした。アフターコロナとなった今期、主要3社である渡辺食品機械、ワタショウ、ワタナベ冷機は過去最高の売上を目指すとして狼煙を挙げた。今や札幌バブルとも称されるこの機を逸することなく同グループの快進撃が再び始まろうとしている。2023年に賭ける同グループの今をここに詳報する。

渡邉　正一会長

成功の方程式は聞く耳

ナベビル社長・ワタナベグループ総帥

渡邉 正一会長

2023年の取組みをワタナベグループ総帥として全6社の会長と屋台骨である不動産、ナベビルオーナーとして束ねる渡邉正一会長に聞いた。

「コロナ禍により、大きな打撃を受けた飲食業だが、特に業務用酒類食品卸販売のワタショウにおいては決算が7月であったことから前期の積み増しもあり、20年度（19年8月～20年6月）は75億をマークしたものの一転、21年は40億とほぼ半減となり、22年はネット通販などへの転換が奏功し55億、特に主戦場となる札幌本社では昨年11月より新たにLINEによる発注も受付け、今期は68億と他社の戻りが7割とされるなか、最盛期の9割方まで回復の予定だ。来年にはワタショウ設立から30年という節目を迎えることから渡邉伸隆社長も過去最高の100億を目指すと宣言している。これに伴い新たに2500坪相当の本社兼用物流センターの建設を予定し25年度の完成を目指す。現在、渡辺食品機械本社周辺の土地高騰も青天井となっており、近隣の大通東4に来年8月に竣工する北海道新聞社新本社ビルの約1千坪の敷地面積の坪単価は400万円ともいわれ、当社も含めて近隣の平均は坪300万円台という大きな資産価値を生んでいる。こうした札幌一極集中の現象を捉え、徐々に郊外へとベッドタウンが移りつつありナベビルの賃貸マンションシリーズ〝ルーヴル〟も5棟目の建設に至った。これらは渡食及びワタショウの資金で建設し管理をナベビルが行うといった営業外収益の確保へも繋げている。また札幌同様に大きな変化を遂げ、富裕層外国人居住者や投資家による土地の取得、また観光リゾートとしてのホテル建設などで活性する倶知安（くっちゃん）、ニセコにおいて先頃、駅前角地約2百坪の売買契約を締結した。今後は外国人や居住者に向けた高級酒販店と業務用食品機械は工事、メンテナンスという事業軸を横に拡大。しかし大きな転機はワタショウの設立（1994年）にあるだろう。ある時、顧客への開店祝いに訪れた正一会長へ隣客が職業を尋ねたという。その折「なあんだ冷蔵庫屋さんか、だったら中のビールも売ればいいのに」と言ったという。（渡邉伸一郎社長談）

果たして、この時「何を言っている馬鹿にして」としたらワタショウ誕生はあっただろうか。そういう考えもあるのかという井の中の蛙とならない『聞く耳』を持つことこそ、現在のワタナベグループ成長の原点ではないだろうか。

現在のワタショウ物流センター

次の世代に向上心喚起　全部門へ取締役配置完了

営業外収益も着実に確保

渡辺食品機械では働き方改革に準じた社員の雇用体系や評価制度も推進している。昨年は本社5階部分をリノベーションしてリフレッシュルームとし、安心して食事ができるスペースの確保や時には仮眠もとれるカウチ的ソファなども配置することで健康経営にも注力している。

今期は雇用において、営業部に取締役を据えたことで本社、営業部、財務部、管理部、東京支店にあり、その後の案件においても渡辺食品機械とのシナジーにより22年度以来の過去最高売上を目指すものとしている。

また厨房ファクトリーについてもグループ企業となった初年度から黒字化を果たしている。

渡邉伸一郎社長は「渡辺食品機械の前身となった祖父、渡邉政雄商店が個人創業したのは1941年だが、法人登記し現在の形となったのは1953年で会社設立から70年にあたる。次を担う者としても社長就任から5期目に成果を残したい。ワタショウが来年は創立30周年、ワタナベ冷機も再び最高額を更新する勢いの中、中核企業である当社も全ての事業と全拠点の総力を結集する」と23年度（23年1月～12月）の展望を語った。

山本　紀幸
取締役営業部長

横の約100坪相当の土地を取得し、コインパーキングとした。これにより表通りから同社倉庫までが一望でき見通しが良くなったという副産物も生まれた。

真駒内の賃貸マンション完成予想図

今年は札幌市南区真駒内に渡辺食品機械が保有する不動産に賃貸マンションを建設し来年5月の完成を目指す。同マンションの敷地面積は1095平方㍍（約330坪）でRC造、7階建てで単身者ならびにファミリー層を対象に2LDK18戸、3LDK6戸の全24戸で駐車場ならびに駐輪場も戸数同様の24台分を完備する。

「賃貸収入やパーキングなどの固定費が月極で入ることの重要性はコロナ禍を通じて学習した。企業にとってのBCP（事業継続計画）対策としても今後は注目されるのでは。時として住居などはグループ社員にとっても、利用価値が高いと思われる」と話す。

コロナ明けで需要が一気に膨張

渡辺食品機械

エンジンとして完結への取り回しも

渡邉　伸一郎社長

渡辺食品機械（社長＝渡邉伸一郎氏、本社・札幌市中央区南1条東4丁目7番地）の23年度立ち上がりが好調に推移している。同社は道内随一の冷熱商社として供給責任を最大使命とすることでワタナベグループの旗艦企業として存在感を示してきた。

近年のワタナベグループの進展同様に事業軸を拡張することで新たな需要を生み出している。例えば成長著しいランドリー事業に付与する形で昨年は新たに同部内に券売機課を新設した。これはグループ企業である厨房ファクトリーがそもそも自社事業として対象先のユーザーに行っていたビジネス（飲食店舗の券売機設置とアフターサービス）を渡辺食品機械がグループカを活かし全道対応へと押し上げ、さらには単独のビジネスとして成長を期す種とした。早速、ビジネスチャンスが舞い込む。来年4月には新たな二万円札の顔となる渋沢栄一など新紙幣の発行がある。これに伴い券売機の更新需要を取り込むこととなる。

また基軸の空調冷熱事業については4月以降からの道内大型案件へのスペック・イン好調だ。

渡邉伸一郎社長は「既に兆候は1月頃より見え始め、新型コロナウイルスの感染症法上の分類が5月から第5類へと引き下げられると報じられた頃より、ユーザーの投資意欲の高まりを肌で感じてきた。過去3年に渡る我慢が吹っ切れたように新設、更新などの引き合い、見積り、成約と動きが速い。近年の例として空調関係での伸びしろもある。こうしたニーズに応えるべく当社、管理部のエキスパートスタッフが緻密に分析を行い、仕入れ調整を十分に図り暦年の3倍以上の積み増し在庫を持って対応。決して品切れを起こさないといった供給責任を全うすることで需要の獲得も勢いづいた。またランドリー事業においても店舗増設はもとより、病院、老健施設、ホテル関係などへ納めた機器が丁度、経年劣化を迎えつつあり、当面はこうした更新需要が続くものと思われる。当社においては従来、扱ってきた冷凍機がほぼ同サイズの洗濯機に置き変わったという印象で、商材としての差異は全く感じない。これらは券売機や建築土木資材・工具関係の事業についても同様で、当社がグループ各社の扱うユーザーとそのニーズをグループ内の企業で完結できるよう取り回しを行うエンジンを担っている」と分析した。

スーパーでの施工例

そのうえで冷凍・冷蔵・店舗設備設計・施工を展開するワタナベ冷機についても3月決算を終え、一昨年の特需を含む過去最高売上とほぼ横ばいでの着地を果たしたが、今期（23年4月～24年3月）については第一四半期より、実需が伸長傾向に加え、ペット用コインランドリーに至る営業展開を図っている。同社が注力するランドリー事業については現在のライフスタイルの変化に対する親和性の高さを強調する。全国のコインランドリー市場は低成長時代といわれるなかにあっても拡大を続け当年度の全国の店舗設置数は2万5000店舗に上ると試算。その最大のメリットはコインランドリー経営がセルフサービスの無人店舗であるために人件費を抑えることができるという大きな特長があり、例えば資産（空き店舗や遊休地など）の有効活用に適した事業であることから法人における新規事業やサイドビジネスとしても注目されている。今後はPCやタブレット・スマートフォンといったIT端末で管理ができるAQUA独自の最新のソリューションを推進する構えだ。

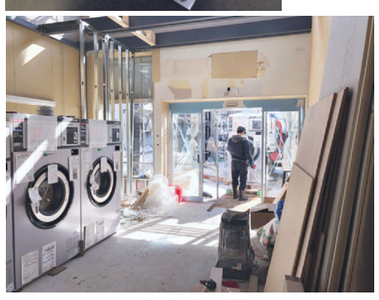
既に同社管理の店舗では現在の実際の稼働（使用）状況の確認やバーチャルでリアル感のある360度アングルの画像を見ることができる。

建築土木資材事業

〝さっぽろ経済〟の表紙を飾る

注目のランドリー事業

さっぽろ経済の表紙と中面


店舗開設の施工状況

札幌商工会議所が会員企業向けの機関紙として年12回2万部を発行する「さっぽろ経済」の5月号の表紙を渡辺食品機械のランドリー事業が飾った。中面の〝わが社の注目株〟という頁で同事業に携わる入社5年目の特販2課の永井超（すぐる）主任と同・森安克文部長のインタビューが掲載された。

その一部を紹介すると現業についてはコインランドリー（AQUA）の事業内容提案から市場調査、事業収支提案、店舗イメージ図案の立案のほか機器販売やIoTランドリーシステム関連作業等の開店準備作業から開店後のアフターフォローまでを担当する。現在、拡大路線を歩むコインランドリー事業の現状についてはダウンアウターや布団、靴など普段は家でなかなか洗うことのできないものを洗えることや、近年の核家族化、共働き世代といった家庭における家事の意識傾向である「時短」への貢献を指摘したうえで利便性を追求した成長市場であることを示している。

一方、上司から見た永井主任の仕事ぶりと今後の期待について森安克文部長は「どのような仕事でも責任感を持って意欲的に取り組んでおり安心して仕事を任せることができる。（中略）若手メンバーの中でもリーダーシップを遺憾なく発揮し今後は道内のランドリー事業を牽引する存在になって欲しい」とエールを送っている。

◇

渡辺食品機械においては2009年に旧・三洋電機グループの三洋アクアが北海道からのランドリー事業撤退を事業継承し、業務用ランドリー製品を軸に医療施設・介護施設・コインランドリー

私たちが目指しているのは、「飲・食」のトータルプランナーです

お客さまからの引合いや設備計画のお話しがありましたら、そのチャンスをムダにしないためにも、ぜひ渡辺食品機械にご相談ください。最新の技術ノウハウと、あとあとめんどうなクレームのつかない機器を選定してアドバイスをいたします。
またいかなる設備についても機器を含めて、その適・不適の診断もお手伝いいたします。
さらに個々の価格についても渡辺食品機械は大量仕入れによって、安価にご提供できるものと確信しています。すべてにご満足いただける《渡辺食品機械》それが当社の姿勢です。

確かな品質、機能満載
価格感激!! 利益は確実。

主な代理店・特約店・取扱メーカー（五十音順）
アイリスオーヤマ　アカギ　アクア　アサダ　旭有機材　アルインコ　イイファス　イチネンTASCO　因幡電機産業　イノアックコーポレーション　イワキ　ウチヤマコーポレーション　エスコ　NJT銅管　MCCコーポレーション　オカムラ　カクダイ　KTC 京都機械工具　ケー・エフ・シー　ケルヒャー ジャパン　工機ホールディングス　コンドーテック　鷺宮製作所　三甲　サンコーテクノ　芝浦自販機　シンワ測定　スーパーツール　スターエム　ダイキン工業　ダイキンHVACソリューション　大洋製器工業　ダイレイ　タカギ冷機　谷沢製作所　TJMデザイン　東芝キヤリア　TONE　トップ工業　日栄インテック　日動工業　日軽パネルシステム　日商エアロ　日本イトミック　日本液炭　日本シーズ線　日本デコラックス　日本ヒルティ　ネミー　パナソニック　パナソニック産機システムズ　日立製作所　不二工機　富士電機　三菱電機　モリカワ　山一製作所　ヤマカツ　若井産業

冷凍機・空調機器・冷凍資材の綜合商社
渡辺食品機械株式会社
本　　社　〒060-0051　札幌市中央区南1条東4丁目7番地
☎011－231－7811・代表
FAX　011－231－1563
東京支店　〒130-0011　東京都墨田区石原1丁目12番7号
☎03－5619－1600・代表
http://www.watashoku.co.jp

ワタナベグループ
私たちが目指しているのは、「飲・食」のトータルプランナーです。

冷凍機・空調機器・資材総合商社
渡辺食品機械株式会社
本　　社　札幌市中央区南1条東4丁目7番地　TEL(011)231-7811
東京支店　東京都墨田区石原1-12-7村上ビル1F　TEL(03)5619-1600

冷凍・冷蔵・空調設備設計・施工
ワタナベ冷機株式会社
本　　社　札幌市北区新川西2条1丁目1番10号　TEL(011)766-5451

業務用厨房機器・販売・設計・施工
株式会社厨房ファクトリー
本　　社　札幌市中央区南1条東4丁目7番地　(渡辺食品機械本社ビル)
八 軒 店　札幌市西区八軒10条西11丁目1番41号　TEL(011)633-3611

業務用酒類食品卸販売
ワタショウ株式会社
本　　社　札幌市中央区南4条東4丁目1番地　TEL(011)222-4700
物流センター　札幌市中央区南3条東5丁目1番地　TEL(011)222-8800
旭 川 支 店　旭川市新星町5丁目4番7号　TEL(0166)26-5959
小 樽 支 店　小樽市稲穂1丁目1番1号　TEL(0134)21-6500

業務用食肉加工製造・氷製造販売
ワタショウフーズ株式会社
本　　社　札幌市中央区南4条東5丁目1番地　TEL(011)272-2983
本社工場　札幌市中央区南4条東5丁目1番地　TEL(011)272-2983

業務用酒類・食品・氷販売
マルショウ株式会社
本　　社　札幌市中央区南3条東5丁目1番地　TEL(011)222-0347

総合不動産業
ナベビル株式会社
本　　社　札幌市中央区南4条東4丁目1番地　TEL(011)222-0777